

ドバイスはする。)

偏見が生まれないように、励まし合う雰囲気や学級指導の中で作ること。(「勉強のできない生徒のクラス」という観念をもたせないことがこの形態を定着させる。)

自分にそのコースが合わないと思った場合は、選択し直せるシステムであること。(最初と定期テスト後に選択する。)

特に習熟の遅れた生徒に焦点を当て、より効果的に成果を上げることが目標にすること。

「習熟度別少人数分割授業」は、1年の国語、2年の英語、3年の数学で実施しており、年間通しての取組としては2年を経過している。コースは、従来の授業内容の「しっかりコース(ステップアップコース)」と、基礎・基本の定着を目指す「ゆったりコース(ウォーキングコース)」の2コースがある。

学習の単元や、定期テストの問題は同じ物を使用するが、特に「ゆったりコース(ウォーキングコース)」では、基礎的な内容の反復学習に時間を多く割くことを念頭に置いて授業を組み立てている。

また、毎学期の終わりには、アンケートを実施し、生徒の意識の変化の様子を分析し、今後の指導方法の参考としている。

(3) 研究の成果と課題

平成15年度(2003年)2学期のアンケートの「授業内容は」という質問の結果から見ると、「よくわかった」「まあわかった」と答えた生徒は全体の66%となった。

さらに、学年・教科・コース別で見ると、次のような数値が見られた。

1年・国語		2年・英語		3年・数学	
ゆったり	しっかり	ゆったり	しっかり	ウォーキング	ステップアップ
60%	74%	51%	80%	59%	69%

また、「教科の力がついたと思うか」という問いに対し、「とても思う」「少し思う」と回答した生徒は、以下のようになった。

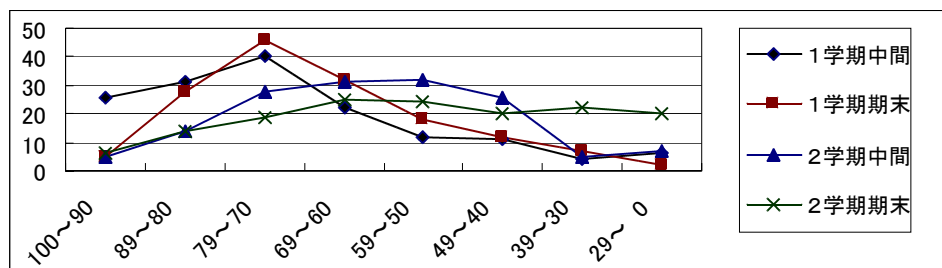
1年・国語		2年・英語		3年・数学	
ゆったり	しっかり	ゆったり	しっかり	ウォーキング	ステップアップ
54%	55%	33%	57%	45%	36%

*全体では46%

アンケートを取り始めてから、「授業内容は」の方の数値にはあまり変化は見られないが、「教科の力がついたと思うか」の問いは、「とても思う」「少し思う」の数値は、若干ではあるが上昇してきている(アンケートを取り始めた2001年の2学期は38%であった。)。これは、この授業形態が生徒の中に定着しつつあることを示しており、好感をもって受け入れられていることがうかがえる。

しかし、当初からの目標である低学力傾向の生徒の「学力向上」が実現したかという点においてはまだ到達半ばであり、依然として、各学年に20名前後の早急な指導を必要としている生徒がいるのが現状である。グラフは1年生の国語の定

期テストの成績分布である。



個々の生徒の課題を克服していくためには、より個に応じた教材の開発が必要であり、指導方法の確立も求められている。その点では、まだ各コースの授業内容の区別が不十分なため、「ゆったりコース」で学習する生徒が多く、望ましい指導ができていない。今後、基礎・基本コースの人数を減らし、学習意欲につながる力を身に付けるための支援を十分に行うためにも、生徒に内容の違いを明確に提示しなければならない。

また、習熟度別授業を担当する一人の教師の指導に任せるのではなく、今年度試みられた授業中における大学生の援助や、放課後の個々の生徒への指導など、全校態勢での取組が大切である。

現在もテスト前の基礎学力講座、3年生の「おはよう勉強会（理科・社会・国語）」、「放課後勉強会（数学）」、個人ノートによる個別指導などに取り組んでいるが、来年度はさらに充実したものにしたいと考えている。

これらの取組が効果を上げ、学力の向上につながっているのかを検証するためには、定期テストや、アンケートだけでは無理がある。個々の生徒が3年間の学習でどのように変化をしたのかが分かるような、難易度の統一したテストを使用し、継続的に調査する必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

1年間の習熟度別少人数授業取組だけでなく、校内で取り組まれた学力向上のためのあらゆる実践を整理し、総括することがこれからすべきことである。そうした実践記録を作ることは、次の年度・次の担当者に引き継ぐための大切な資料となるであろう。

また、9月25日に中間発表会を開催し、多くの参観者の前で授業を公開した。さらに、今年度より始まった全教師による公開授業と授業研究も是非継続し、お互いの指導方法の研鑽に努めたいと思う。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】            15年度からの新規校     ✓ 14年度からの継続校
- 【学校規模】                    3学級以下                    4～6学級  
                                     7～9学級                    10～12学級  
                                     13～15学級                ✓ 16学級以上
- 【指導体制】                    ✓ 少人数指導                    T・Tによる指導  
                                     その他
- 【研究教科】                    ✓ 国語                    社会                    ✓ 数学                    理科  
                                     ✓ 外国語                    音楽                    美術                    技術・家庭  
                                     保健体育                    その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                    ✓ 有                    無
- ~~~~~

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント(都道府県教育委員会記入)】  
分かる授業の創造を目指した、指導体制の工夫を生徒のアンケート結果も交えて紹介している。